

時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ適宜ノ音響信號ヲ爲ス

霧中速力

第十六條 霧中降雪其ノ他暴雨中ハ各船現時ノ狀況ニ注意シ
適度ノ速力ヲ以テ進行スヘシ
漁船其ノ正横ヨリ前面ニ方リテ他船ノ霧中信號ヲ聞キ其ノ
所在ヲ定メ得サルトキハ成ルヘク機關ノ運轉ヲ止メ全ク衝
突ノ虞ナキニ至ルマテ其ノ運航ニ注意スヘシ

航カ

衝突ノ危険ハ其ノ現況ニヨリ我船ニ近寄り來ル他船ノ方位
ヲ看守シテ之ヲ豫知スルヲ得若其ノ方位儘ニ變更スルヲ認
メサルトキハ危険アルモノト知ルヘシ

第十七條

一 船ヨリ左ノ如ク他船ノ航路ヲ避クヘシ
二 杯ニ開カサル船ハ右舷ニ一杯ニ開キタル船
ノ航路ヲ避クヘシ
三 一杯ニ開カサル二艘ノ船、風ヲ受クル舷同シカラサ
ルトキハ左舷ニ風ヲ受ケタル船ヨリ他船ノ航路ヲ避
クヘシ
四 一杯ニ開カサル二艘ノ船、風ヲ受クル舷同シキトキ
ハ風上ノ船ヨリ風下ノ船ノ航路ヲ避クヘシ
五 船尾ヨリ風ヲ受ケタル船ハ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第十八條

一 衝突ノ虞アルトキハ兩船トモ鍼路ヲ右舷ニ轉シ互ニ他船ノ
左舷ノ方ヲ行過スヘシ
二 本條ハ兩船正シク眞向又ハ幾ノト眞向ニ行逢フテ
アルトキニ限り適用スヘシ兩船各々其ノ鍼路ヲ保チテ互ニ
替リ行クトキニハ適用スヘカラス
三 本條ヲ應用スヘキ場合ハ兩船共ニ正シク眞向又ハ幾ノト眞
向ニ行逢ヒタルトキ即チ晝間ニアリテハ我船ノ檣ト他船ノ

海上衝突防豫法

第二十五條 瀛船狹隘ノ水道ニ於テ無難ニ航通シ得ルトキハ其ノ中流ノ右側即チ本船ノ右舷ニ當ル方ヲ航行スヘシ
第二十六條 航路ヲ避クヘシ但シ漁船ト雖猥ニ他船ノ通航スヘキ線路ヲ妨クヘカラス

第二十七條 本法ヲ履行スルニ當リ運航及衝突ニ關シ百般ノ危險ニ法意スルハ勿論若危險切迫シテ本法ヲ履行シ能ハサル特殊ノ場合ニ於テハ其ノ危險ヲ避クル爲臨機ノ處置ヲ爲スコトニ注意スヘシ

航路信號
第二十八條 本條中短聲トハ大約一秒時間ノ發聲ヲ謂フ
航行中ノ瀛船他船ニ近寄り鉞路ヲ變セムトスルトキハ瀛笛若ハ瀛角ヲ以テ左ノ信號ヲ爲シ他船ニ我船ノ鉞路ヲ通知スヘシ

短聲一發 我船鉞路ヲ右舷ニ取ル
短聲二發 我船鉞路ヲ左舷ニ取ル

短聲三發 我船全速力ニテ後退ス
懈怠ノ責

第二十九條 本法ハ點燈、信號又ハ見張ノ怠リ其ノ他海員ノ常務又ハ臨機ノ處置ニ必要ナル注意ノ怠リヨリ生シタル結果ニ付船、船主、船長海員ヲシテ其ノ責ヲ免レシメサルモノトス

特例

第三十條 本法ハ地方長官ニ於テ規定シタル港、川其ノ他内海ノ運航ニ關スル特別規則ノ施行ヲ妨クス

難船信號
第三十一條 危難ニ罹リテ他船又ハ陸地ヨリ救助ヲ要スル船舶ハ左ノ信號ヲ同時又ハ別々ニ使用スヘシ
晝間信號

- 一 大約一分時ノ間隙ヲ以テ砲又ハ其他ノ爆裂發火信號ヲ發ス
- 二 萬國船舶信號書ニ掲載スルNCノ難船信號ヲ表示ス

海上衝突豫防法

書間第一號
正項第一號
四項第五號
削除第四號
項ニテニ
項ケニテ
間信號
第一項
第ニ項
第ニ項
スチ改正

- 三 方形旗ノ上又ハ下ニ球若ハ之ニ類似ノモノヲ掲クル
 - 四 遠隔信號ヲ表示ス
 - 霧中信號器ヲ以テ間斷ナク音響ヲ發ス
 - 夜間信號
 - 一 大約一分時ノ間隙ヲ以テ砲又ハ其ノ他ノ爆裂發火信號ヲ一發ス
 - 二 船上ノ發焰(タール桶、油樽等ヲ燃焼スルノ類)
 - 三 星火ヲ發スル榴彈或ハ火箭ヲ一次一發ツ、度々打揚ク
 - 四 霧中信號器ヲ以テ間斷ナク音響ヲ發ス
- 附則
- 第三十二條 本法中船舶積量噸數ニ關シ日本形船ハ十石ヲ以テ一噸ニ通算ス
 - 第三十三條 本法ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行ス
 - 第三十四條 明治十三年七月第三十五號布告海上衝突豫防規則

同十四年五月第三十三號布告同規則追加同十八年八月第二十七號布告同規則改正追加ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

○海上衝突豫防法第九條ニ掲載スル網及細釣漁業ノ說明
明治二十五年八月十八日
遞信省告示第百八十五號

明治二十五年六月法律第五號海上衝突豫防法第九條ニ掲載スル
刺網、線網及細釣漁業トハ左ニ記載スルモノヲ謂フ
刺網トハ鰮刺網、鮪流網、鯉流網其他流シテ用ウル刺網
線網トハ打セ網、帆曳網其他漁船ノ進行ニ從ヒ海底ヲ曳ク
細釣漁業トハ曳網又ハ延繩ヲ使用スル漁業但シ延繩ハ延入
レ若クハ線上クルトキニ限ル

◎海員試験規程

第一章 總則

第一條 海員試験ハ左ノ十二種トス

- 甲種船長試験
- 甲種一等運轉士試験
- 甲種二等運轉士試験
- 乙種船長試験
- 乙種一等運轉士試験
- 乙種二等運轉士試験
- 丙種船長試験
- 丙種運轉士試験
- 機長試験
- 一等機關士試験
- 二等機關士試験
- 三等機關士試験

第二條 海員試験ハ遞信大臣ノ定ムル場所及期日ニ於テ之ヲ

執行ス 遞信大臣ニ於テ前項ノ定日外ニ臨時試験ヲ執行スルノ必要アリト認ムルトキハ別ニ其ノ場所及期日ヲ定ム

第二章 受験履歴

第三條 年齢二十年以上ニシテ左ニ掲クル履歴ノ一ヲ有スル者ハ海員試験ヲ受クルコトヲ得

甲種船長試験

- 一 甲種一等運轉士ノ免狀若ハ遞信大臣ニ於テ之ニ相當ス
- ト認ムル外國政府ノ免狀ヲ受有シ一年以上登簿噸數三百噸以上ノ航洋船ニ乗組ミ一等運轉士ノ職ヲ執リタルコト
- 一 乙種船長若ハ丙種船長ノ免狀ヲ受有シ一年以上登簿噸數三百噸以上ノ航洋船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リタルコト

甲種一等運轉士試験

海員試験規程

一 甲種二等運轉士ノ免狀若ハ遞信大臣ニ於テ之ニ相當ス
ト認ムル外國政府ノ免狀ヲ受有シ一年以上登簿噸數三
百噸以上ノ航洋船ニ乗組ミ二等運轉士ノ職ヲ執リタル
コト

甲種二等運轉士試験

一 四年以上登簿噸數二百噸以上ノ航洋船ノ運航ニ從事シ
其ノ内一年以上ハ横帆裝置ノ帆船又一年以上ハ汽船ニ
乗組ミタルコト

一 遞信大臣ノ允當ト認ムル學校ニ在テ航海運用學卒業ノ
上三年以上登簿噸數二百噸以上ノ航洋船ノ運航ニ從事
シ其ノ内一年以上ハ横帆裝置ノ帆船又六月以上ハ汽
船ニ乗組ミタルコト

乙種船長試験

一 乙種一等運轉士ノ免狀ヲ受有シ一年以上登簿噸數一百
噸以上ノ航洋船ニ乗組ミ一等運轉士ノ職ヲ執リタル
コト

一 乙種一等運轉士ノ免狀ヲ受有シ一年以上登簿噸數五十
噸以上ノ航洋船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リタルコト

一 水先人免狀ヲ受有シ三年以上其ノ營業ヲ爲シタルコト

一 乙種一等運轉士試験

一 四年以上登簿噸數一百噸以上ノ航洋船ノ運航ニ從事
シタルコト

一 乙種二等運轉士ノ免狀ヲ受有シ一年以上登簿噸數一百
噸以上ノ航洋船ニ乗組ミ運轉士ノ名義ヲ以テ其ノ運
航ニ從事シタルコト

一 乙種二等運轉士ノ免狀ヲ受有シ一年以上登簿噸數五十
噸以上ノ航洋船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リタルコト

一 遞信大臣ノ允當ト認ムル學校ニ在テ航海運用學卒業ノ
上三年以上登簿噸數一百噸以上ノ航洋船ノ運航ニ從
事シタルコト

一 乙種二等運轉士試験

一 三年以上登簿噸數一百噸以上ノ航洋船ノ運航ニ從事
シタルコト

一 乙種二等運轉士試験

一 三年以上登簿噸數一百噸以上ノ航洋船ノ運航ニ從事
シタルコト

一 乙種二等運轉士試験

一 三年以上登簿噸數一百噸以上ノ航洋船ノ運航ニ從事
シタルコト

一 乙種二等運轉士試験

一 三年以上登簿噸數一百噸以上ノ航洋船ノ運航ニ從事
シタルコト

一 乙種二等運轉士試験

一 三年以上登簿噸數一百噸以上ノ航洋船ノ運航ニ從事
シタルコト

一 乙種二等運轉士試験

一 三年以上登簿噸數一百噸以上ノ航洋船ノ運航ニ從事
シタルコト

一 遞信大臣ノ允當ト認ムル學校ニ在テ航海運用學卒業ノ
上二年以上汽船ノ運航ニ從事シタルコト

一 丙種船長試験
上若ハ積石數一千石以上ノ航洋帆船ニ乗組ミ一等運轉

一 丙種運轉士ノ免狀ヲ受有シ一年以上登簿噸數五十噸以
上若ハ積石數五百石以上ノ航洋帆船ニ乗組ミ船長ノ職

一 水先人免狀ヲ受有シ三年以上其ノ營業ヲ爲シタルコト

一 丙種運轉士試験
一 四年以上航洋帆船ノ運航ニ從事シタルコト
一 遞信大臣ノ允當ト認ムル學校ニ在テ航海運用學卒業ノ
上三年以上航洋帆船ノ運航ニ從事シタルコト

一 機關長試験
一 一等機關士ノ免狀若ハ遞信大臣ニ於テ之ニ相當スト認

ムル外國政府ノ免狀ヲ受有シ一年以上登簿噸數三百噸
以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ一等機關士ノ職ヲ執リタルコ

一 一等機關士ノ免狀若ハ遞信大臣ニ於テ之ニ相當スト認
以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ機關長ノ職ヲ執リタルコト

一 四年以上登簿噸數二百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ機關
ノ運轉ニ從事シタルコト

一 二等機關士ノ免狀ヲ受有シ一年以上登簿噸數五十噸以
上ノ航洋汽船ニ乗組ミ機關長ノ職ヲ執リタルコト

一 二等機關士ノ免狀ヲ受有シ一年以上登簿噸數一百噸以
上ノ航洋汽船ニ乗組ミ一等機關士ノ職ヲ執リタルコト

一 二等機關士ノ免狀ヲ受有シ一年以上登簿噸數五百噸以
上ノ航洋汽船ニ乗組ミ二等機關士ノ名義ヲ以テ機關ノ
運轉ニ從事シタルコト

一 遞信大臣ノ允當ト認ムル機關工場若ハ學校ニ在テ二年
以上機關ノ製造若ハ修繕ニ從事シタル上一年六月以上
登簿噸數二百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ機關ノ運轉ニ
從事シタルコト

二 二等機關士試験
一 四年以上登簿噸數五十噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ機關

一 三等機關士ノ免狀ヲ受有シ一年以上登簿噸數五十噸以
上ノ汽船ニ乗組ミ機關長ノ職ヲ執リタルコト

一 遞信大臣ノ允當ト認ムル機關工場ニ在テ一年以上機關
ノ製造若ハ修繕ニ從事シタル上一年六月以上登簿噸數
五十噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ機關ノ運轉ニ從事シタ
ルコト

一 三等機關士試験
一 三年以上登簿噸數五十噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ機關
ノ運轉ニ從事シタルコト

ノ製造若ハ修繕ニ從事シタル上一年以上汽船ニ乗組ミ
機關ノ運轉ニ從事シタル事

第四條

甲種一等運轉士若ハ甲種二等運轉士ノ免狀ヲ以テ乙
種一等運轉士ノ免狀ニ代用シ其ノ職ヲ執リタル者ハ乙種船
長試験又丙種運轉士ノ免狀ニ代用シ其ノ職ヲ執リタル者ハ
丙種船長試験ヲ受クルコトヲ得但シ其ノ執職期間ハ第三條
ノ規定ニ依ルヘシ

甲種二等運轉士ノ免狀ヲ受有シ登簿噸數五百噸以上ノ航洋
船ニ乗組ミ三等運轉士ノ名義ヲ以テ其ノ職ヲ執リタル者又
ハ一等機關士ノ免狀ヲ受有シ登簿噸數五百噸以上ノ航洋船
ニ乗組ミ二等機關士ノ名義ヲ以テ其ノ職ヲ執リタル者ハ其
ノ執職日數ノ半數ヲ以テ各免狀相當ノ職ヲ執リタル履歷ト
見做スコトヲ得

第五條

前數條ニ於テ航洋船ト稱スルハ沿海航船以上ノ船舶
第六條 第三條中乙種船長試験第一號及第二號ニ掲タル職務

ハ其ノ執職期間ヲ通算シテ一年ニ滿ツルトキハ履歷タル效カヲ有ス乙種一等運轉士試驗第二號及第三號、丙種船長試驗第一號及第二號、機關長試驗第一號及第二號、一等機關士試驗第二號、第三號及第四號ニ掲クル職務ニ關シテモ亦同シ

第七條 左ニ掲クルモノハ第三條、第四條ニ規定シタル履歷タル效カヲ有セス

- 一 繫留船ニ乗組ミタルモノ
- 二 年齢滿十五年前ニ係ルモノ
- 三 明治十二年八月前ニ係ルモノ

第三章 受験申請

第八條 海員試驗ヲ受ケントスル者ハ試驗期日七日前(休暇日ヲ算日ヲ算入セス)迄ニ其ノ履歷書、身分書及海技免狀受有者ニ在テハ海技免狀ノ寫ヲ添エ受験申請書ヲ船舶司檢所若ハ船舶司檢所支所ニ差出スル者ハ試驗期日三日前(休暇日ヲ算臨時試驗ヲ受ケントスル者ハ試驗期日三日前(休暇日ヲ算

入セス)迄ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第九條 履歷ハ左ニ掲クル書類ヲ以テ之ヲ證明スヘシ

- 一 商船ニ乗組ミタル履歷、當該官吏公吏ノ證明書
- 二 海軍艦船艇其ノ他官廳所屬船ニ乗組ミタル履歷
- 三 當該官廳若ハ艦艇ノ辭令書若ハ證明書
- ノ卒業證書若ハ工場ニ在リタル履歷、當該學校若ハ工場

第十條 身分書ニハ左ノ事項ヲ記載シ本籍市區町村長、外國人ニ在テハ本國領事ノ證明ヲ受クベシ

- 一 原籍地、身分及氏名
- 二 生年月日
- 三 船舶職員法第六條第一號及第二號ニ掲クル事項ニ該當セサルコト

第十一條 受験申請者ハ體格検査ニ付テハ二十錢、學術試験ニ付テハ其ノ試験ノ種類ニ從ヒ左ノ手数料ヲ納ムヘシ

甲種船長 五圓

甲種一等運轉士

三圓

甲種二等運轉士

二圓

乙種一等運轉士

三圓

乙種二等運轉士

二圓

丙種船長

一圓

丙種運轉士

三圓

機關長

五圓

一等機關士

三圓

二等機關士

二圓

三等機關士

一圓

第十二條 體格検査手数料ハ受験申請書ト與ニ納メ學術試験
手数料ハ學術試験開始ニ先チテ納ムシ

第十三條 既納手数料ハ事故ノ如何ヲ問ハス之ヲ還付セス
第十四條 海員試験ハ體格検査及學術試験トス體格検査ニ合

第四章 試驗

格シタル者ニアラサレハ學術試験ヲ受クルコトヲ得ス但シ
體格検査ニ合格シ學術試験ニ合格セサル者體格検査ヲ受ケ
タル日ヨリ三箇月以内ニ於テ試験ヲ受ケントスルトキハ試
驗官吏ノ見込ニ依リ體格検査ヲ省略スルコトアルヘシ
學術試験ハ分チテ筆記試験及口述試験トス但シ乙種二等運
轉士試験、丙種運轉士試験及三等機關士試験ニハ筆記試験
ヲ行ハス
筆記試験ニ合格シタル者ニアラサレハ口述試験ヲ受クルコ
トヲ得ス
學術試験ハ別記ノ科目ニ依リ之ヲ行フ

第十五條 筆記試験ニ於テ答ヲ爲スノ時限ハ試験官吏之ヲ定
ム

第十六條 試験官吏ニ於テ受験人ノ履歷若ハ身分ニ詐欺錯誤
アルコト又ハ受験ノ資格ナキコトヲ發見スルトキ若ハ船舶
司檢所ノ定メタル受験人心得ニ違反シタルコトヲ認ムルト

キハ何時ニテモ其ノ試験ヲ停止スルコトヲ得

第十七條 試験官吏ニ於テ受験人第十六條ノ處分ヲ受クヘキ

所爲アリタルコトヲ試験終了後ニ發見スルトキハ其ノ試験

ヲ無効トスヘシ

第十八條 受験人左ニ掲クル場合ニ於テハ其ノ試験ハ成立セ

サルモノトス

一 定期ノ日時ニ出場セサルトキ

二 試験ヲ了ラシテ退場シタルトキ

三 第十五條ノ時限内ニ答ヲ爲サルトキ

四 第十六條ノ處分ヲ受ケタルトキ

第十九條 受験人試験ニ合格シタルトキハ附録書式ノ合格證

書ヲ付與ス

第二十條 合格證書ヲ付與シタル後試験官吏ニ於テ合格者第

十六條ノ處分ヲ受クヘキ所爲アリタルコトヲ發見スルトキ

ハ該合格證書ヲ無効トスヘシ

前項ノ場合ニ於テハ當該船舶司檢所若ハ船舶司檢所支所ハ

之ヲ官報ニ公告スヘシ

第五章 試験停止

第二十一條 體格検査ニ合格セサル者ハ受験ノ日ヨリ三箇月

ヲ經過スルニアラサレハ試験ヲ受クルコトヲ得ス

第二十二條 同種免狀ニ對スル筆記試験ニ合格セサルコト若

ハ筆記試験成立セサルコト三箇月間ニ於テ二回ニ及ヒタル

者ハ最後受験ノ日ヨリ三箇月ヲ經過スルニアラサレハ下等

免狀ニ對スルノ外試験ヲ受クルコトヲ得ス

第二十三條 同種免狀ニ對スル口述試験ニ合格セサルコト若

ハ口述試験成立セサルコト二回ニ及ヒタル者ハ最後受験ノ

後三箇月間實地運航ニ從事シタル履歴ヲ有スルニアラサレ

ハ下等免狀ニ對スルノ外試験ヲ受クルコトヲ得ス

前項ノ履歴ニ關シテハ第三條、第七條及第九條ノ規定ヲ適

用ス

附則

第二十四條 此ノ規定ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

海員試験規程

第二十五條 明治二十六年遞信省令第十五號明治二十九年遞信省令第十條及明治三十年遞信省令第三號ハ此ノ規程施行ノ日ヨリ廢止ス

(別記)

試驗科目

- 一 星象高度ニ據リ緯度ヲ知ル算法
- 二 太陽子午線高度ニ據リ緯度ヲ知ル算法
- 三 經度及太陽高度ニ據リ時辰儀ノ違差ヲ知ル算法
- 四 「ナビール」自差表調製及用法
- 一 羅針差ノ證明
- 二 原基羅針据附及矯正ノ方法
- 三 船難ニ際シ人命及船舶ヲ救護スル方法
- 四 颶風ノ解明及避難法

- 五 船舶及船長海員ニ關スル法規ノ要領
- 六 前數項ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

（甲種一等運轉士試驗ノ科目ヲ合セ）

- 一 太陽方位角ニ據リ羅針ノ違差ヲ知ル算法
- 二 子午線ニ近キ太陽高度ニ據リ緯度ヲ知ル算法
- 三 「サムナー」法ニ據リ船舶所在ノ位置及太陽ノ方位角ヲ知ル算法
- 四 潮ノ算法
- 一 六分儀ノ矯正用法及時辰儀ノ取扱

- 二 下橋建設其ノ他圓材ノ取扱方法
- 三 船中不慮ノ事變ニ會シ之ニ應スル處置
- 四 瀛船ノ暗車作用
- 五 前數項ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項
- 六 甲種二等運轉士試驗

- 一 航海運用ニ關スル用語ノ解明
- 二 航海日誌ノ記載
- 三 分數及比例算法
- 四 航海日誌ノ算法
- 五 緯線航行算法
- 六 「マーケートル」法又ハ中分緯度法ニ據リ經緯度若ハ針路航程ヲ知ル算法
- 七 太陽子午線高度ニ據リ緯度ヲ知ル算法
- 八 太陽出沒方法ニ據リ羅針ノ違差

海員試驗規程

- 九 時辰儀及太陽高度ニ據リ經度ヲ知ル算法
- 十 羅針自差ノ算法
- 一 船具ノ取附及取脫
- 二 桅橋ノ取架ノ揚降
- 三 船舶常時運轉及碇泊ノ方法
- 四 測程具及測深具ノ解明並用法
- 五 貨物積載及預防法
- 六 海上衝突預防法
- 七 萬國信號法
- 八 羅針自差ノ測定方法
- 九 前數項ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項
- 十 乙種船長試驗
- 一 乙種一等運轉士試驗及乙種二等運轉士試驗ノ科目ヲ合セ
- 二 太陽子午線高度ニ據リ緯度ヲ知

二百十七

(乙種二等運轉士試験ノ科目ヲ合セ)

- 二 太陽ノ出沒方位又ハ方位角ニ據リ羅針ノ違差ヲ知ル算法
- 三 時辰儀ノ太陽高度ニ據リ經度ヲ知リ又ハ太陽高度及經度ニ據リ時辰儀ノ違差ヲ知ル算法
- 一 六分儀ノ矯正用法及時辰儀ノ取扱
- 二 羅針差ノ解明
- 三 瀛船ノ暗車作用
- 四 瀛船ヲ運送投下シ又ハ之ヲ引揚ル方法
- 五 航海中不慮ノ事變ニ會シ之ニ應ズル處置
- 六 船難ニ際シ人命及船舶ヲ求護スル方法
- 七 船舶及船長海員ニ關スル法規ノ要領
- 八 前數項ノ外本分ノ職務ニ關シ試験官吏ニ於テ必要ト認ムル事項
- 九 乙種一等運轉士試験

- 一 航海日誌ノ記載
- 二 航減乘除應用算法
- 三 航海日誌ノ算法
- 四 羅針自差ノ算用
- 五 海圖ノ應用
- 一 帆ノ取扱
- 二 海上衝突豫防法
- 三 萬國信號法
- 四 羅針自差ノ測定方法
- 五 前數項ノ外本分ノ職務ニ關シ試験官吏ニ於テ必要ト認ムル事項
- 六 乙種二等運轉士試験
- 一 羅針儀ノ解明及用法
- 二 測程具ノ測深具ノ解明及用法
- 三 瀛船運轉及碇泊ノ方法
- 四 船舶衝突豫防ノ方法
- 五 船舶信號法ノ大要

六

- 一 前數項ノ外本分ノ職務ニ關シ試験官吏ニ於テ必要ト認ムル事項
- 二 丙種運轉士試験ノ科目ヲ合セ
- 一 航海日誌ノ算用
- 二 太陽子午線高度ニ據リ緯度ヲ知ル算法
- 三 太陽ノ出沒方位又ハ方位角ニ據リ羅針ノ違差ヲ知ル算法
- 四 時辰儀及太陽高度ニ據リ經度ヲ知リ又ハ太陽高度及經度ニ據リ時辰儀ノ違差ヲ知ル算法
- 五 羅針自差ノ算用
- 一 六分儀ノ矯正用法及時辰儀ノ取扱
- 二 羅針差ノ解明及測定方法
- 三 帆船運送投下シ又ハ之ヲ引揚ル方法
- 四 航海中不慮ノ事變ニ會シ之ニ應
- 五 海員試驗規程

八 七 六

- 一 スル處置
- 二 船難ニ際シ人命及船舶ヲ救護スル方法
- 三 船舶及船長海員ニ關スル法規ノ要領
- 四 前數項ノ外本分ノ職務ニ關シ試験官吏ニ於テ必要ト認ムル事項
- 五 丙種運轉士試験
- 一 羅針儀ノ解明及用法
- 二 海圖ノ應用
- 三 測程具ノ測深具ノ解明及用法
- 四 帆ノ取扱
- 五 帆船上衝突豫防ノ方法
- 六 船舶運轉及碇泊ノ方法
- 七 船舶信號法ノ大要
- 八 前數項ノ外本分ノ職務ニ關シ試験官吏ニ於テ必要ト認ムル事項
- 九 機關士試驗、二等機關士試驗及三等機關士試驗ノ科目

ヲ合セ)

- 一 汽機強力、汽機強力、螺旋螺距、煙突溫度、蒸氣膨脹、蒸氣切斷、水壓力、開平式、汽力圖等ニ關スル算法
- 二 汽機汽機局部ノ製圖
- 三 熱及汽機汽機ニ於ケル熱ノ効力及汽機汽機各部ニ要スル諸強力ノ解明
- 四 汽機汽機各部ノ解明
- 五 汽機汽機各部ノ解明
- 六 蒸氣及其ノ膨脹力使用ニ基キ各種汽機比較ノ大要
- 七 汽力器及汽力圖ノ解明
- 八 汽機汽機ノ要部及炭量水量等ノ割合

- 一 重量、炭費、觸火面、速力、槓杆安全、唧筒馬力等ニ關スル算法
 - 二 汽機汽機各部組成ノ理解
 - 三 各種ノ汽機汽機構造及利害ノ解明
 - 四 汽機各部ノ働力方向ノ解明
 - 五 各種ノ滑瓣、働機及推進器ノ解明
 - 六 車軸、螺旋軸、滑瓣等ノ裝置及其位置ノ改正
 - 七 馬力ノ解明
 - 八 汽機汽機ニ關スル諸器製造ノ理解
- 前數項ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項
- (二等機關士試驗ノ科目ヲ合セ)
- (三等機關士試驗ノ科目ヲ合セ)

- 一 汽機汽機組成ノ大要
- 二 汽機汽機ノ損シ易キ部分及之ニ對スル注意
- 三 汽機汽機ニ腐蝕損其ノ他毀損ヲ來タスノ原因及其ノ豫防方法
- 四 運轉中汽機汽機ニ要スル注意
- 五 前數項ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項
- 六 汽機汽機ノ檢査ノ方法
- 七 汽機汽機各部ノ効用
- 八 汽機汽機ニ屬スル諸器ノ効用及用法
- 九 汽機汽機ノ取扱及運轉方法
- 十 運轉中汽機汽機ニ不慮ノ危害ヲ生シタルトキノ處置
- 十一 前數項ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

海員試驗規程

附錄書式

試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

合格證書

道府縣華士族平民

氏名

生年月日

右者海員試驗規程ニ依リ(試驗種類)ヲ受ケ合格ス、依テ此ノ證書ヲ付與ス

明治 年 月 日

船船司檢所長(船) 氏名印

遞信省令第七號參照

明治二十六年八月十日遞信省令第十五號ハ西洋形船船長運轉手機關手續試驗規程、同
二十九年六月十日遞信省令第十號及同三十年三月三日遞信省令第三號ハ同規程中改
正ノ件ナリ

○遞信省告示第百八十五號(明治三十一年六月二十二日)

海員試驗ハ東京海事局、大阪海事局、長崎海事局、及函館海
事局ニ於テ之ヲ執行ス但外國人ニ係ル試驗ハ東京海事局ニ於
テノミ之ヲ執行ス
海員試驗執行ノ期日ハ毎月十日トス但シ當日休暇日ナルトキ
ハ順次之ヲ延期ス
海務署ニ於テハ現ニ繼續中ニ係ル海員試驗ニ限り執行ス

◎海港檢疫法

明治三十二年二月十三日法律第十九號

第一條 海外諸港及臺灣ヨリ來ル船舶ニ對シテハ傳染病豫防
ノ爲檢疫ヲ施行ス
檢疫ヲ施行スヘキ海港及傳染病ノ種類ハ內務大臣之ヲ指定
ス

第二條 海外諸港及臺灣ヨリ檢疫ヲ施行スル港ニ來ル船舶ハ
其ノ入港前ニ於テ此ノ法律ニ依リ檢疫ヲ受ク許可證ヲ得タ
ル後ニ非レハ其ノ港ニ入港シ陸地又ハ他船ト交通シ船客乘
組員ノ上陸、物件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス
前項ノ船舶ニシテ入港後傳染病患者ヲ發生シタルトキハ檢
疫官吏ノ指定ニ從ヒ更ニ檢疫ヲ受ク許可證ヲ得ルニ非レハ
他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ船客乘組員ノ上陸、物
件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス

第三條 船長其ノ他ノ乘組員及船客ハ檢疫官吏ノ尋問ニ對シ
之ニ應答シ又船長其ノ他ノ乘組員ハ檢疫官吏ノ請求アルト
シ

海港檢疫法

キハ所定ノ式紙ニ事實ヲ記入シ其氏名ヲ署シタル明告書ヲ
差出スヘシ

船長ハ檢疫官吏ノ請求ニ應シテ航海日誌ヲ示シ且船内ノ各
部ヲ開キ検査ヲ受クヘシ但シ船ハ航海中船客又ハ乗組員ニ
テ占居シタルトキ又ハ他ノ事故ニ依リテ傳染病毒ニ汚染シ
タル疑アルトキニ限リ其ノ検査ヲ受クヘシ

第四條 海外諸港及臺灣ヨリ檢疫ヲ施行スル港ニ來ル船舶ニ
シテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ其ノ入港前ヨリ許可證
ヲ得ルマテ檢疫信號ヲ掲クヘシ

一 現ニ傳染病患者若ハ死者アルモノ
二 航海中傳染病患者若ハ死者アリタルモノ
三 傳染病流行地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ來航シ若ハ傳
染病毒ニ汚染シタル船舶ト交通シタルモノ

第二條 第二項ノ船舶ハ患者發見ノ時ヨリ許可證ヲ得ルマテ
檢疫信號ヲ掲クヘシ
檢疫信號ハ晝間ハ船舶ノ前檣頭ニ黃旗ヲ掲ク夜間ハ同所

紅白二燈ヲ連掲スルモノトス

第五條 海外諸港及臺灣ヨリ檢疫ノ施行セサル港ニ來ル船舶
ニシテ第四條第一項ノ各號ノ一ニ該當スルモノ又ハ其ノ港
内ニ碇泊中傳染病患者ヲ發生シタル者ハ前條ノ規定ニ從ヒ
檢疫信號ヲ掲ク其ノ地ノ警察官吏ニ届出テ指揮ヲ待ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ警察官吏ノ命アルトキハ直ニ檢疫ヲ施行
スル港ニ同航シ檢疫ヲ受クヘシ

第一項ノ場合ニ於テ警察官吏ノ指揮アルマテハ他港ニ進航
シ陸地又ハ他船ト交通シ船客乗組員ノ上陸、物件ノ陸揚ヲ
爲スコトヲ得ス

第六條 檢疫官吏ハ第一條ノ船舶ニ對シ左ノ處分ヲ爲スコト
ヲ得

一 現ニ傳染病患者又ハ死者アルモノハ命令ノ定ムル期
間停船ヲ命シ患者死者ノ處分ヲ指示シ船舶其ノ他ノ
物件ノ消毒法ヲ施行シ且必要アリト認ムルトキハ船
客乗組員ヲ檢疫所ニ移轉セシムルコト

海港檢疫法

二 航海中傳染病患者若ハ死者アリタルモノハ第一號ノ
 三 規定ニ準シテ處分スルコト
 四 傳染病流行地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ來航シ若ハ其
 五 ノ船舶ニ傳染病者第一號ノ汚染シタル疑アルモノハ必要ア
 六 リト認ムルトキ第一號ノ規定ニ準シテ處分スルコト
 七 停船中傳染病患者ヲ發生スルトキハ更ニ第一號ノ規
 八 定ニ依リ處分スルコト
 九 傳染病ノ疑アル患者アルトキハ二日ヨリ多カラサル
 十 期間停船ヲ命スルコト
 十一 第七條 停船ヲ命セラレタル船舶ハ檢疫官吏ノ指示シタル場
 十二 所ニ碇泊シ其ノ許可ヲ得ルニ非レハ他ニ移轉スルコトヲ得
 十三 ス
 十四 第八條 檢疫所ニ移轉セシメラレタル船客乗組員ハ檢疫官吏
 十五 ノ許可ヲ得ルニ非サレハ本船其ノ他ト交通シ若ハ物件ヲ搬
 十六 出スルコトヲ得ス
 十七 第九條 船舶及物件ノ消毒ハ檢疫官吏之ヲ施行シ船長其ノ他

ノ乗組員ハ其ノ施行上ニ關シ之ヲ補助スルノ義務アリ
 前項ノ消毒費ハ船主船長若ハ其ノ代理人ヨリ徵收ス
 第十條 檢疫所ニ移轉セシメラレタル者ノ食費及患者死者ニ
 關スル費用ハ其ノ乗組員ニ屬スルモノハ船長若ハ其ノ代理
 人ヨリ其ノ船客ニ屬スルモノハ本人ヨリ之ヲ徵收ス
 本條及第九條第二項ノ費額及其ノ徵收ニ關シ必要ノ規程ハ
 命令ヲ以テ之ヲ定ム
 第十一條 第二條第五條第七條第八條ノ規定ニ違背シタルモ
 第十二條 此ノ法律ノ執行ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨害シ又ハ檢疫官
 吏ノ尋問ニ對シテ答辨ヲ爲サス若ハ虛偽ノ事實ヲ答辯シ又
 十三 ハ其ノ命令ニ從ハサル者ハ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ
 處ス
 船長若ハ船長ノ職務ヲ行フ者前項ノ罪ヲ犯シ又ハ船客乗組
 員ノ之ヲ犯スヲ知テ制止セサルトキハ五百圓以上五百圓以
 下ノ罰金ニ處ス

第十三條 附則 外國ノ軍艦ニシテ檢疫ヲ施行セル港ニ來航スルニ當リ第四條第一項各號ニシテ該當スル事實ナキトキハ其ノ艦長及警官ヨリ書面ヲ以テ檢疫官吏ニ其ノ旨ヲ明告スヘシ内外國ノ軍艦ニシテ第二條第二項第四條第一項各號ノ一ニ該當スル事實アルモノハ檢疫官吏ニ於テ其ノ艦ト陸地又ハ他船トノ交通乗組員ノ上陸ノ物件ノ陸揚ヲ制限スルコトヲ得又同ノ軍艦ニシテ第五條ノ規定ニ該當スル場合ハ其ノ地ノ警察官吏ニ於テ以上ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第二條第二項及第五條ニ該當スル事實アルトキハ艦長及警官ヨリ其ノ旨ヲ檢疫官吏又ハ警察官吏ニ通知スヘシ

前三項ノ外軍艦ニ對スル檢疫ハ檢疫官吏ニ於テ艦長ト協議シ此ノ法律ノ規定ニ準シテ執行スルモノトス

第十四條 此ノ法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 明治十二年第二十九號布告明治十五年第三十一號布告明治二十四年勅令第六十五號明治二十七年勅令第五十

六號ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

法律第十九號參照

明治十二年七月十一日第二十九號布告ハ檢疫停船規則、同十五年六月二十三日第三十一號布告ハ虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則、同二十四年六月十二日勅令第六十五號ハ海外諸港ヨリ來ル船舶ニ對シ檢疫ノ件、同二十七年五月二十六日官報勅令第五十六號ハ清國及香港ニ於テ流行スル傳染病ニ對シ船舶檢疫ノ件ナリ

○海港檢疫所位置

海港檢疫所ノ名稱及位置左ノ如シ

- 橫濱海港檢疫所 武藏國橫濱
- 神戸海港檢疫所 攝津國和田岬
- 長崎海港檢疫所 肥前國女神
- 前項ノ外肥前國口ノ津ニ長崎海港檢疫所ノ支所ヲ置ク

◎戸籍法抜萃

第七十條 汽車又ハ航海日誌ヲ備ヘタル船舶中ニテ出生アリタル場合ニ於テハ其届出ニ付テハ到着地ヲ以テ出生地ト看做ス

第七十八條 航海中ニ子ノ出生アリタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時内ニ乗船者中ヨリ選ミタル證人ノ前ニ於テ第六十八條ニ掲ケタル諸件ヲ航海日誌ニ記載シ證人ト共ニ署名捺印シ且證人ノ出生年月日、職業及ヒ本籍地ヲ記載スルコトヲ要ス
前項ノ手續ヲ爲シタル後艦船カ日本ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時内ニ其出生ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其地ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要ス
艦船カ外國ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ遲滞ナク其出生ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ送付シ公使又ハ領事ハ三個月内ニ之ヲ外務大

臣ニ發送シ外務大臣ハ十日内ニ之ヲ父母ノ本籍地ノ戸籍吏ニ發送スルコトヲ要ス

(參照)

第六十八條 子ノ出生アリタルトキハ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 子ノ名及ヒ男女ノ別
- 二 子カ私生子ナルトキ又ハ出生前ニ認知セラレタル爲メ庶子ト爲リタル者ナルトキハ其旨
- 三 出生ノ年月日時及ヒ場所
- 四 父母ノ氏名、族稱、職業、及ヒ本籍地但私生子ノ届出ニ付テハ母ノ氏名、族稱、職業及ヒ本籍地ノミヲ記載スルコトヲ要ス
- 五 出生子ノ入ルヘキ家ノ戸主ノ氏名、族稱、職業及ヒ本籍地
- 六 出生子カ一家ヲ創立スル者ナルトキハ其旨及ヒ創立ノ原因

戸籍法抜萃

七 國籍ヲ有セサル者ノ子ナルトキハ其旨

第三百三十條 航海中ニ死亡者アリタルトキハ艦長又ハ船長ハ
 第二十四條ニ掲ケタル諸件ヲ航海日誌ニ記載シ證人ト共ニ署名
 捺印シ且證人ノ出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地ヲ記載スル
 コトヲ要ス

前項ノ手續ヲ爲シタル後艦船カ日本ノ港ニ著シタルトキハ
 艦長又ハ船長ハ二十四時内ニ死亡ニ關スル航海日誌ノ謄本
 ヲ其地ノ戶籍吏ニ送付スルコトヲ要ス

艦船カ外國ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ遲滞ナク
 死亡ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其國ニ駐在スル日本ノ公使
 又ハ領事ニ送付シ公使又ハ領事ハ三個月内ニ之ヲ外務大臣
 ニ發送スルコトヲ要ス

ニ發送スルコトヲ要ス

第三百二十五條 死亡者アリタルトキハ届出義務者カ其死亡者
 ヲ知リタル日ヨリ五日内ニ左ノ諸件ヲ具シ醫師ノ診斷書若

ハ檢案書又ハ警察官ノ檢視調書ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツ
 ルコトヲ要ス

- 一 死亡者ノ氏名、出生年月日、男女ノ別及ヒ本籍地
- 二 死亡ノ年月日時及ヒ場所
- 三 死亡者カ家族ナルトキハ戶主ノ氏名、族稱及ヒ戶主

前項ノ届出期間ハ衛生ノ爲メ特別ノ必要アルトキハ命令ヲ
 以テ之ヲ短縮スルコトヲ得

○勅令第二百四十一號
 石數ヲ以テ積量表示スル船舶ニ關シテハ明治三十四年七月
 一日ヨリ船員法ヲ施行ス

○陸軍省令第二十六號 (明治卅五年九月九日)
 陸軍豫備役後備役ニアルモノ及補充兵ニシテ船員タルモノ
 届出之件左ノ通定ム

明治三十年十月二十三日

陸軍大臣 子爵 高島鞞之助

戶籍法沿革

第一條 陸軍豫備役後備役ニアル者及補充兵ニシテ左ニ掲ク
 ル者ハ其就職又ハ雇入アリタル日ヨリ十四日以内ニ管海官
 廳又ハ管海官廳ノ事務ヲ行フ市町村長戸長若クハ之ニ準ス
 ベキ者外國ニアリテハ日本ノ領事又ハ貿易事務官ノ證明ヲ受ケ本籍島司郡市町村長
 ヲ經テ其旨ヲ本籍聯隊區司令官又ハ警備隊區司令官對馬ニ在
 リテハ警備ニ届出ベシ其退職シ又ハ雇止アルタル并亦同シ
 一、海技免狀ヲ有シ西洋形船舶ニ乗組ノモノ
 二、海員試験規定ニ於テ遞信大臣ノ允當ト認ムル學校ヲ卒
 業シ登簿噸數百噸以上若クハ積石數千石以上ノ船舶ニ
 乗組ノ者
 三、登簿船免狀ヲ受有スル船舶ノ水夫長、舵夫、火夫長、
 油差
 第二條 陸軍後備役ニアルモノ及第二補充兵ニシテ登簿船免
 狀ヲ受有スル船舶ノ賄方水夫火夫ニ付テモ亦前條ニ依ル
 第三條 正當ノ事由ナク第一條第二條ノ届出ヲ怠リタルモノ

ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第四條 第一條ノ市町村長ハ東京市、京都市、大坂市、及市
 制市町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ區長、戸長及之ニ準
 スベキモノトス

第五條 本令施行以前ヨリ第一條及第二條ノ業ニ從事シアル
 モノハ明治三十年十一月廿日迄ニ第一條ノ例ニヨリ届出ベ
 シ但外國渡航中ノ者ハ歸朝後領事ノ證明ヲ受クベキ二十一日以
 内ニ届出ベシ
 前項ノ届出ヲ怠ル者ハ第三條ヲ適用ス

海員必携全 終

戶籍法抜萃

謄本 抄本 下附申請書 (書式)

○本籍何府縣何郡市町村大字何々何番地
士族又ハ平民戸主

右ハ戸籍簿抄本

身分登記ノ謄本

下附申請 何 某

年月日

△何府縣何郡市町村字何々何番地
□何 某^印

何市何町村戸籍吏何某殿

(備考)

一謄本、二抄本、三身分登記ノ謄本右三ノ内必要ノ一ヲ申請ス
○印ハ現在戸主タル者ノ本籍地身分氏名ヲ記スヘシ
△印ハ下附申請スル者ガ謄本ヲ取寄セ置クニ便利ナル場所ヲ記スヘシ
□印ハ下附申請スル者ノ氏名ヲ記スヘシ
謄本ノ下附申請スル者ハ大略金拾錢及ヒ郵稅參錢ヲ現金又ハ郵券ニ
テ送付スヘシ

附錄 下附申請書

承諾書 (書式)

○本籍何府縣何郡市何町村大字何々何番地
士族或ハ平民

何 某 生年月日

右者本人ノ志望ニヨリ海員トナルヲ承諾ス

年月日 △本籍何府縣何郡市何町村大字何々何番地
現住所何府縣何郡市何町村大字何々何番地

戸主又ハ後見人 何 某 印

(備考)

未丁年者ハ本書式ニ倣ヒ豫メ法定代理人(戸主或ハ後見人)ノ承諾書ヲ取寄
セ置クヘシ然ラサレハ乗船スルコト能ハサルナリ
○印ハ承諾ヲ受クヘキ者ノ本籍、身分、氏名、生年月日等ヲ記シ△印ハ承諾
ヲ與フベキ即チ戸主又ハ後見人ノ本籍地現住地氏名等ヲ記スヘシ



委任狀書式 (雇止ノ方) 書式

委任狀

私儀船務多忙(或ハ病氣)ノ爲メ何某ヲ以テ部理代人ト定メ左
ノ權限ノ事ヲ委任致候事

一海員(雇入止變更)公認ニ關スル一切ノ件

右委任狀依テ如件

年月日

九 何 某 印

船長交代ニ付公認申請書 (書式)

四

一 何某所有漁船 何九
一番 號 何號
一 登簿噸數 何噸
一 船籍 何港

私儀從來本船々長トシテ在職罷在候處今般船主ノ都合ニ依リ
何種船長免狀所有第何號何某ト明治何年何月何日交代仕候間
御公認相成度此段申請候也

年月日

前船長 何 某 印
新船長 何 某 印

何々海務署 御中

注意 船長交代ノ際ハ必ス船主ノ命令書又ハ任命書ヲ提出スルヲ要ス

船長就職ニ付認證申請書 (書式)

一 何某所有漁船 何九
一番 號 何號
一 登簿噸數 何噸
一 船籍 何港
一 免狀ノ種類番號

私義今般本船々長トシテ就職仕候ニ付御認證相成度此段申請
候也

年月日

何九船長 何 某 印

何々海務署 御中

附錄 船長就職ニ付認證申請書

五

船長退職ニ付認證申請書 (書式) 六

- 一 何某所有漁船帆船 何九
- 一 番 號 何號
- 一 登簿噸數 何噸
- 一 船 籍 何港
- 一 免狀種類番號

私義今般本船々長ヲ退職仕候ニ付御認證相成度此段申請候也

年月日

何九船長
何

某 印

何々海務署
御中

船員手帖返還届

原籍何府縣何町村番地

船員手帖番號

何

某

右ハ今般廢業致候間船員手帖御返還仕候也

年月日

右

何

某 印

何海務署宛

海難報告

- 一 船名
- 二 船籍港
- 三 船舶所有者氏名名稱
- 四 事實ノ發生シタル場所年月日時
- 五 報告スヘキ顛末

年月日

船長

何

某^印

明治卅五年十月九日印刷
全 年十月十二日發行

定價 金貳拾錢

神奈川縣橫濱市千代崎町五番地

編纂兼發行者 松重清右衛門

全縣全市尾上町五丁目八十一番地
印刷者 原田松三郎

全縣全市全所
印刷兼發行所 原田印刷合名會社

終

